

平成 29 年度事業実績

1 稼働状況 ※プラン 11 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減
総延入院患者数	145,697 人	140,921 人	148,491 人	7,570 人
新入院患者数	13,079 人	12,906 人	13,581 人	675 人
全病床利用率	75.8%	73.5%	77.5%	4.0%
一般病床利用率	83.5%	80.2%	83.7%	3.5%
平均在院日数	10.1 日	9.9 日	9.9 日	0.0 日
総外来患者数	220,796 人	218,525 人	222,917 人	4,392 人
新外来患者数	22,268 人	21,384 人	20,878 人	▲506 人
入院患者 1 人 1 日当り診療単価	67,251 円	70,032 円	69,184 円	▲848 円
外来患者 1 人 1 日当り診療単価	12,805 円	13,470 円	13,931 円	461 円
手術件数	4,821 件	4,797 件	4,800 件	3 件
分娩件数	940 件	955 件	957 件	2 件
重症度、医療・看護必要度	22.3%	29.6%	27.9%	▲1.7%
紹介率	73.3%	78.0%	80.4%	2.4%
逆紹介率	74.8%	77.6%	82.5%	4.9%

○患者数については、入院・外来ともに前年度を上回った。主な理由として、入院患者数については、救急搬送患者の受入に注力したこと、並びにICU・HCU(救急病棟)及び一般病棟において円滑なベッドコントロールに取り組んだことによる。外来患者数については、暦の関係で 29 年度の外来診療日が 1 日多かったことに加え、放射線科における医師の増員により、増となった。

○入院患者 1 人 1 日当り診療単価は、比較的診療単価の低い診療科の患者が増加したこと等により、前年度を下回った。外来患者 1 人 1 日当り診療単価は、放射線治療や化学療法(抗がん剤)を必要とする患者数が増加したことにより、前年度を上回った。

○手術件数及び分娩件数については、ほぼ前年度並みであった。

○重症度、医療・看護必要度については、前年度を若干下回ったが、7 対 1 入院基本料を確保することができた。

2 救命救急センターの受入れ状況 ※プラン 11 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減
救急患者受入れ数	15,078 人	14,524 人	14,422 人	▲102 人
うち入院患者数	5,326 人	5,189 人	5,603 人	414 人
救急車搬送患者受入れ数	5,721 人	5,722 人	6,429 人	707 人

○救急患者全体については、救急隊からの依頼件数の減等に伴い、前年度よりも若干受入れが減少したが、重篤な救急患者の積極的な受入れに努めたことにより、入院患者数は増加した。

○救急車で搬送された患者の受入れ数は、119 番・救急隊からの依頼を極力断らないという対応を徹底したことにより、前年度に比べ大幅に増加した。

3 数値目標を設定した項目に係る実績

【戦略 I】 これからのニーズを踏まえた医療提供体制の充実 ※プラン 21 ページ参照

	実績			改革プラン 2017 目標	
	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減	平成 29 年度	平成 32 年度
手術件数(手術センター分)	4,797 件	4,800 件	3 件	4,900 件	5,000 件
分娩件数(再掲)	955 件	957 件	2 件	960 件	990 件
臨床研修医受入れ数	29 人	32 人	3 人	32 人	34 人
救急患者受入れ数(再掲)	14,524 人	14,422 人	▲102 人	15,200 人	15,500 人
救急車搬送患者受入れ数(再掲)	5,722 人	6,429 人	707 人	5,900 人	6,200 人
救命コール受入れ数	441 件	581 件	140 件	420 件	480 件

○手術件数については、前年度とほぼ横ばいで、プランの目標件数に達しなかった。

○分娩件数については、概ねプランの目標件数を達成した。

○救命コール(重症度・緊急度が高いと判断される場合、救急隊の出動要請と同時に、消防本部から個々の医療機関に対し収容を依頼するもの)受入れ数については、積極的な受入れに努めたことにより、前年度に引き続き、件数が大幅に増加した。

【戦略Ⅱ】 地域の医療機関から信頼され、市民に選ばれる病院づくり ※プラン 23 ページ参照

	実績			改革プラン 2017 目標	
	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減	平成 29 年度	平成 32 年度
紹介率(再掲)	78.0%	80.4%	2.4%	76.5%	78.0%
逆紹介率(再掲)	77.6%	82.5%	4.9%	76.5%	78.0%
紹介元医療機関数	1,470 件	1,435 件	▲35 件	1,420 件	1,450 件
紹介先医療機関数	1,487 件	1,482 件	▲5 件	1,510 件	1,540 件
病院・開業医からの救急患者受入応需率	76.5%	74.4%	▲2.1%	80.0%	80.0%

○紹介率については、前年度に引き続きプランの目標値を上回った。

○紹介元及び紹介先医療機関数については、地域の医療機関への小まめな訪問に取り組んだが、いずれも前年度を下回った。

○病院・開業医からの救急患者受入応需率について、依頼件数及び受入数のいずれも前年度より減少したことにより、応需率も前年度を下回った。

【戦略Ⅲ】 市立病院を必要とする患者さんを速やかに受け入れる体制の構築 ※プラン 24 ページ参照

	実績			改革プラン 2017 目標	
	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減	平成 29 年度	平成 32 年度
1 日当り入院患者数	386 人	407 人	21 人	414 人	428 人
月平均新入院患者数	1,076 人	1,132 人	56 人	1,130 人	1,220 人
一般病床利用率(再掲)	80.2%	83.7%	3.5%	85.4%	88.4%
1 日当り外来患者数	899 人	914 人	15 人	900 人	900 人
月平均新外来患者数	1,782 人	1,740 人	▲42 人	1,850 人	1,910 人

○月平均新入院患者数については、前年度を上回り、プランの目標も達成した。患者が増加した主な診療科は、神経内科 11 人、内科 11 人、小児科 10 人であった。

○月平均新外来患者数については、前年度を下回った。患者が減少した主な診療科は小児科▲21 人、消化器内科▲9 人、整形外科▲7 人であった。

【戦略Ⅳ】 収益アップ・コスト縮減両面に亘る経営改善策の徹底 ※プラン 25 ページ参照

	実績			改革プラン 2017 目標	
	平成 28 年度	平成 29 年度	28→29 増減	平成 29 年度	平成 32 年度
経常収支比率	91.9%	92.3%	0.3%	91.4%	94.4%
医業収支比率	87.5%	88.2%	0.7%	87.6%	91.0%
職員給与費対医業収益比率	58.2%	57.6%	▲0.6%	57.4%	56.6%
100 床当り職員数	167 人	170 人	3 人	170 人	172 人
診療材料費対医業収益比率	11.6%	11.9%	0.3%	11.8%	11.7%
薬品費対医業収益比率	7.8%	8.0%	0.2%	8.2%	8.2%
経費対医業収益比率	22.0%	21.4%	▲0.6%	22.2%	21.6%
後発医薬品使用割合	77.0%	87.0%	10.0%	80.0%	80.0%

- 経常収支比率、医業収支比率のいずれも、医業収益が大幅に増となったものの、一方で職員給与費、材料費も同じ程度で増加したことにより、前年度に比べて小幅な改善に留まったが、プランの目標値は達成した。
- 前年度比べ、医業収益の増に伴い、職員給与費及び経費の対医業収益比率は減少したが、一方で高額な診療材料や薬品の使用が増えたことにより、診療材料費及び薬品費の対医業収益比率は若干上昇した。
- 後発医薬品の積極的な採用に引き続き努めたことから、後発医薬品使用割合は前年度より上昇した。